

大分県長期漁海況予報

〔平成 27(2015)年 8 月～12 月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部
879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6

Phone: 0972-32-2155 Fax: 0972-32-2156 HP: <http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

海況経過<平成 27 年 4～7 月>

■黒潮

1 月下旬以降、都井岬沖では「接岸」～「やや離岸」で推移しました。5 月下旬には都井岬沖で小蛇行(※図3を参照)が形成され始め、6 月上旬には「著しく離岸」となりました。6 月上旬～7 月中旬には足摺岬～潮岬沖を小蛇行が東進しました。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、4月はやや高め、5～7月は「平年並み」で推移しました(図1)。

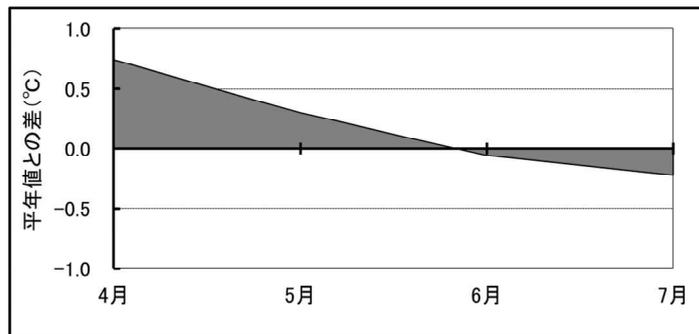


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、4月は20m以深で「やや低め」、5～6月は「平年並み」、7月は75m層で「きわめて低め」となりましたが、その他の層では概ね「平年並み」で推移しました(図2)。

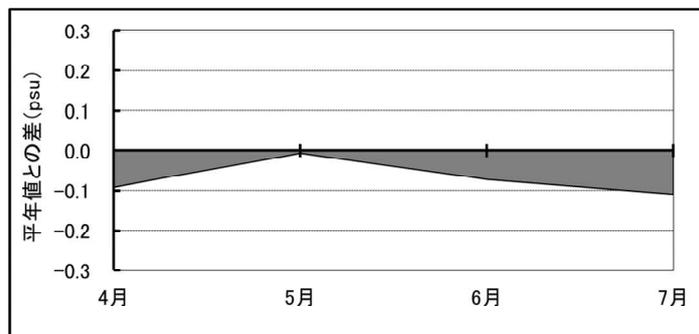


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

今後の海況の見通し<平成 27 年 8~12 月>

■黒潮

- ・都井岬沖では、8 月以降は接岸傾向で推移するでしょう。
- ・足摺岬～潮岬沖では、8 月に小蛇行の東進により一時的に離岸するでしょう。

■沿岸水温

「平年並み」で推移するでしょう。ただし、冬季については「高め」となる可能性があります。

■予測の説明と根拠

- ・黒潮流路予測は平成 27 年度第 1 回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2015)を参考にしました。
- ・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられ、福岡管区气象台の「九州北部地方3ヶ月予報」では「低め30%、平年並み40%、高め30%」と予測していることから沿岸水温は平年並みで推移すると思われます。しかし、気象庁によれば現在発生しているエルニーニョ現象^[用語解説①]が冬まで続く可能性が高いと推定されていることから、冬季は暖冬傾向で推移する可能性があり、沿岸水温もその影響を受けると考えられます。

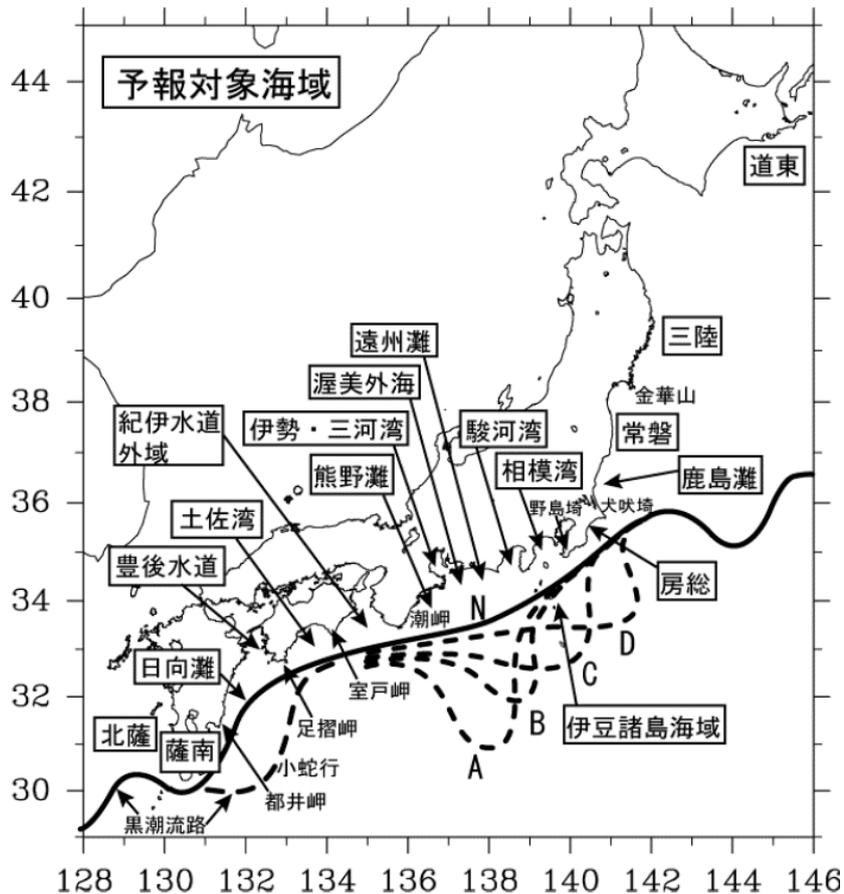


図 3 黒潮流型の分類

※上図は平成27年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(水産庁プレスリリース資料)より引用

■マイワシ

□2015年4～6月の漁況経過

2015年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの漁獲量は4月に10トン、5月に150トン、6月に2,228トンの計2,388トンでした。前年比885%、1986～2014年の平均値(以下「平年」)の比60%と、前年を大きく上まわり平年を下回る漁獲量となりました。漁獲の主体は、4月は被鱗体長^(用語解説②)7cm前後、5～6月は10～11cm前後(いずれも0歳魚:2015年生まれ)でした。

なお、近隣海域^(用語解説③)では宮崎県は前年の530%、愛媛県は前年の4,104%、高知県では前年の12,334%の漁獲量となっています(宮崎県のみ2015年1～6月、その他は2015年4～6月の漁獲量合計値)。

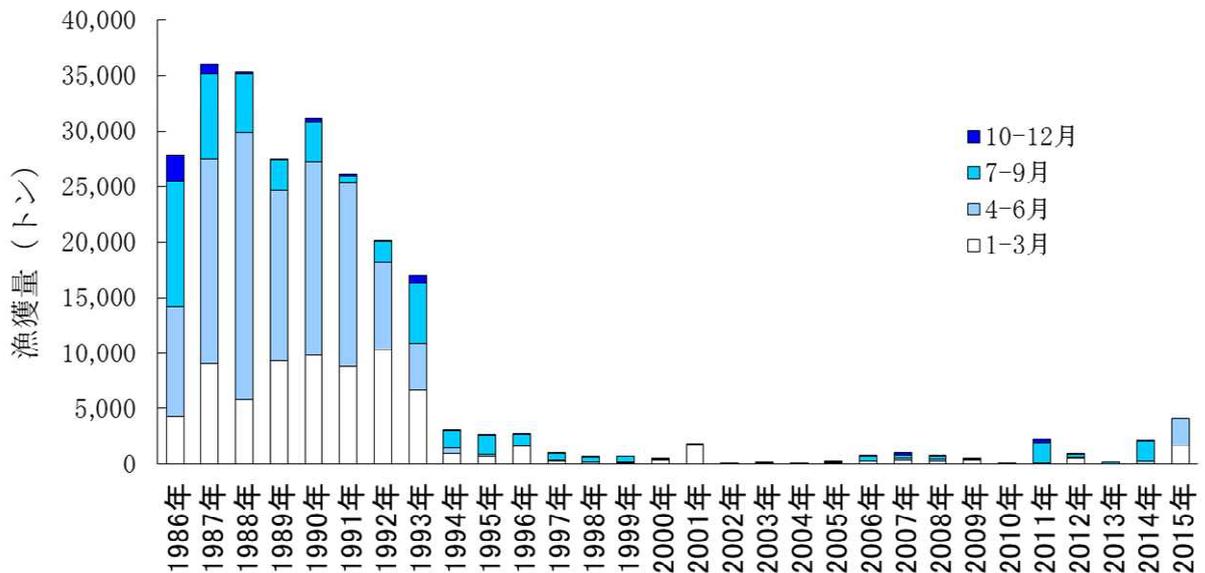


図4 マイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2015年8～12月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2014年8-12月:334トン)

漁獲対象年級群及び体長:

8～10月は被鱗体長12～18cmの0歳魚(2015年生まれ)が主体となるでしょう。

【説明】

0歳魚(2015年生まれ)が漁獲の主体となった6月の漁獲量が2,228トンで、マイワシ漁獲量が急減した1994年以降では最も高い水準でした。予測期間中は0歳魚(2015年生まれ)が漁獲の主体となるため、今後も0歳魚の来遊が期待できます。また、聞き取り調査の結果から、イワシラスを対象とした県南船曳網で4～6月にマイワシラスの漁獲が多かったことも考慮し、来遊水準は前年を上回ると予測しました。

■カタクチイワシ(成魚)

□2015年4～6月の漁況経過

2015年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの漁獲量は4月に50トン、5月に121トン、6月に33トンの計204トンでした。前年比11%、平年比32%と、前年・平年ともに下回る漁獲量となりました。漁獲の主体は、被鱗体長9～11cm前後の1歳魚(2014年生まれ)でした。なお、宮崎県では前年の55%、愛媛県では前年の7%、高知県では前年の11%の漁獲量となっています。

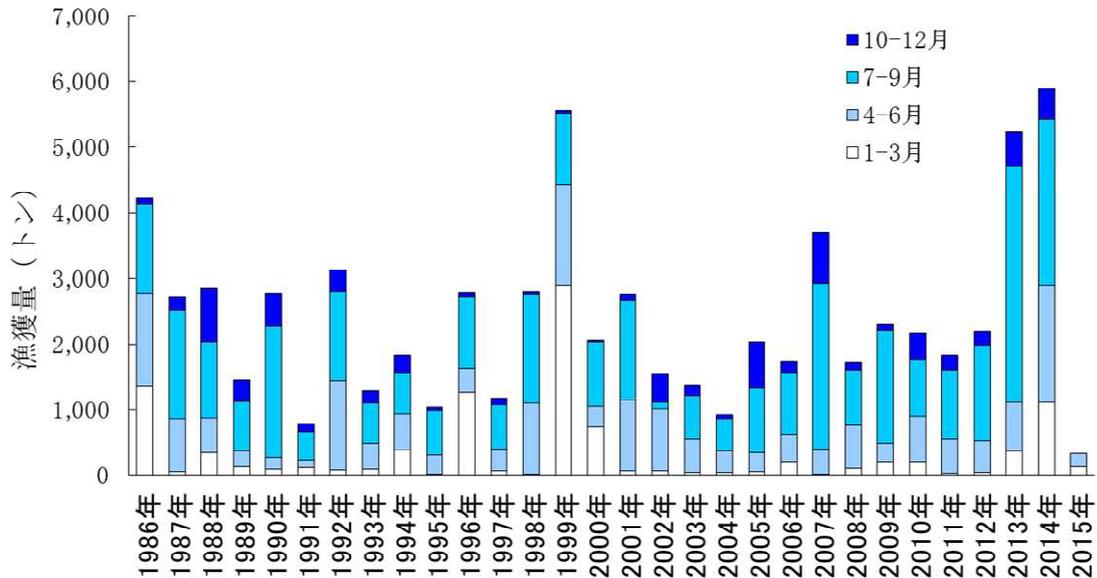


図5 カタクチイワシのまき網における漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2015年8～12月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2014年8-12月:2,078トン)

漁獲対象年級群及び体長:

被鱗体長8cm前後の0歳魚(2015年生まれ)主体に1歳魚(2014年生まれ)が混じるでしょう。

【説明】

1～6月の漁獲量(1歳魚主体)が前年・平年に比べて少ないことから(前年比11%、平年比36%)、1歳魚(2014年生まれ)の来遊水準は前年を下回ると予想されます。ただし予測期間8～12月は0歳魚が漁獲の主体となり、8～9月を過ぎると1歳魚(2014年生まれ)の漁獲割合は小さくなります。

0歳魚(2015年生まれ)の資源量水準は2015年1～3月の潮岬以西の太平洋岸におけるカタクチイワシの産卵量(2015年4月の瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報会議時における暫定値)が前年を下回ったことや(前年比10%)、豊後水道における2015年4～6月のシラス漁が前年程度であること(豊後水道における生シラス出荷量:前年比70%)から、大きな来遊は見込めないと考えられます。したがって来遊水準は前年を下回ると予測しました。

■ウルメイワシ

□2015年4～6月の漁況経過

2015年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの漁獲量は4月に17トン、5月に1トン、6月に13トンの計31トンでした。前年比20%、平年比16%と、前年・平年ともに下回る漁獲量となりました。漁獲の主体は、被鱗体長7～10cm前後の0歳魚(2015年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の52%、愛媛県では前年の373%、高知県では前年の147%の漁獲量となっています。

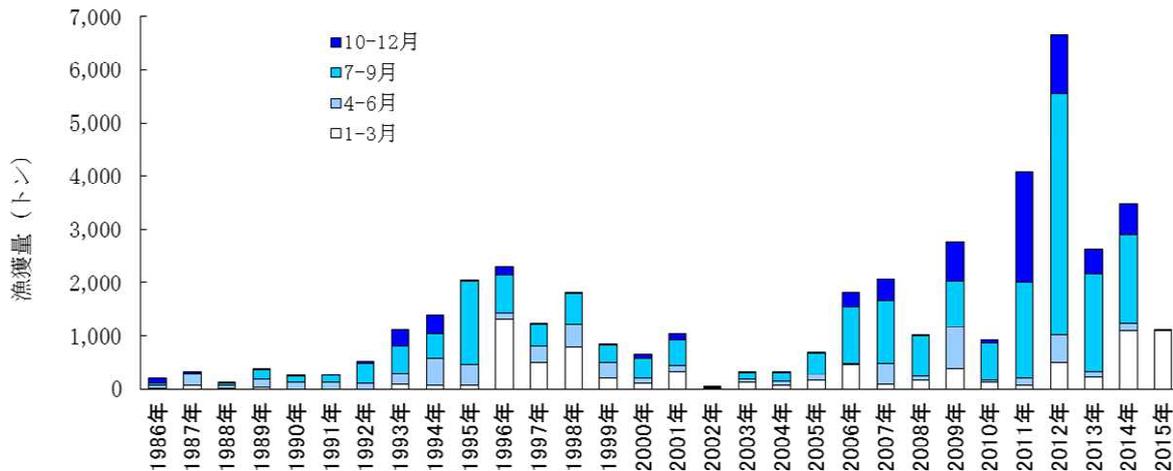


図6 ウルメイワシのまき網における漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2015年8～12月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は前年を下回るでしょう。(2014年8-12月:2,036トン)

漁獲対象年級群及び体長:

8～10月は被鱗体長10～15cm前後の0歳魚(2015年生まれ)が主体となり、11～12月は15～20cm前後に漁獲の主体が推移するでしょう。

【説明】

8～12月の期間中の漁獲は、2011年～2014年が1986年以来過去最高水準の漁獲であること、その4年間の傾向から7～10月に大幅に漁獲が増えると考えられます。

しかし漁獲の主体となる0歳魚(2015年生まれ)の資源量水準は、4～6月のまき網漁獲量(0歳魚主体)が前年を下回ったため(前年比20%)、来遊水準は前年を下回ると予測しました。

■ マアジ

□ 2015年4～6月の漁況経過

2015年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの漁獲量は4月に43トン、5月に41トン、6月に36トンの計120トンでした。前年比170%、平年比22%と前年を上回り、平年を下回る漁となりました。期間中の漁獲の主体は尾叉長^(用語解説④)17cm前後の1歳魚(2014年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の12%、愛媛県では前年の159%、高知県では銘柄「アジ」が前年の94%で銘柄「ゼンゴ」が前年の13%の漁獲量となっています。

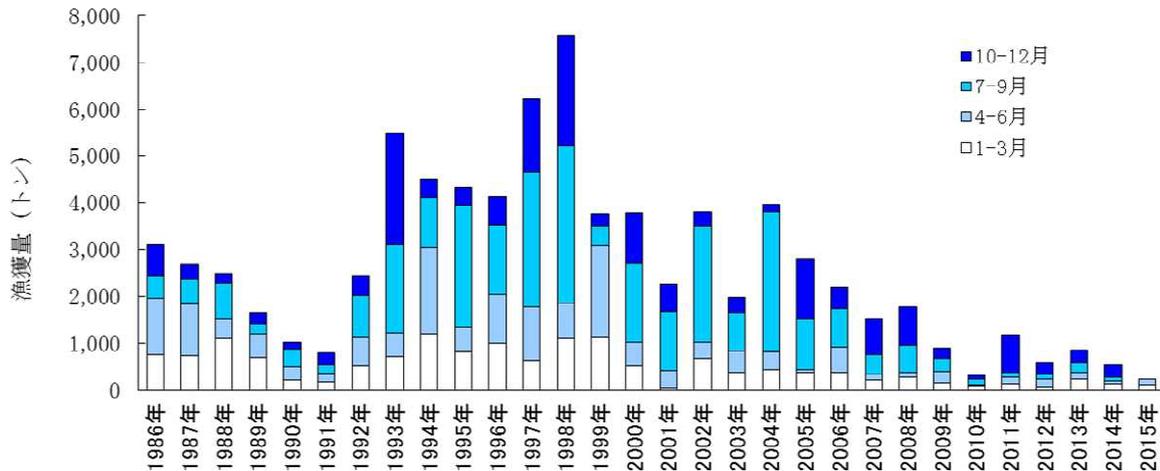


図8 マアジのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2015年8～12月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は低水準ですが前年を上回るでしょう。(2014年8-12月:353トン)

漁獲対象年級群及び体長:

尾叉長10～15cm前後の0歳魚(2015年生まれ)が漁獲の主体で、20cm前後の1歳魚(2014年生まれ)が混じる。

【説明】

予測期間中の漁獲の主体になるのは0歳魚(2015年生まれ)です。4～6月の県南定置網での小アジ(0歳魚)漁獲量は15トン(前年比173%)で、前年を上回りました。これまでの漁況経過についても低水準ですが前年を上回っていることに加え(前年比170%)、近県の定置網での漁獲状況も考慮し、来遊水準は低水準であるが前年を上回ると予測しました。

■さば類

□2015年4～6月の漁況経過

2015年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の漁獲量は4月に146トン、5月に1トン、6月に3トンの計150トンでした。前年比5%、平年比12%と前年・平年ともに下回る漁となりました。期間中の漁獲の主体はマサバが尾叉長37cm前後の3～4歳魚(2011～2012年生まれ)、ゴマサバが尾叉長34cm前後の2～3歳魚(2012～2013年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の75%、愛媛県では前年の8%、高知県では前年の51%の漁獲量となっています。

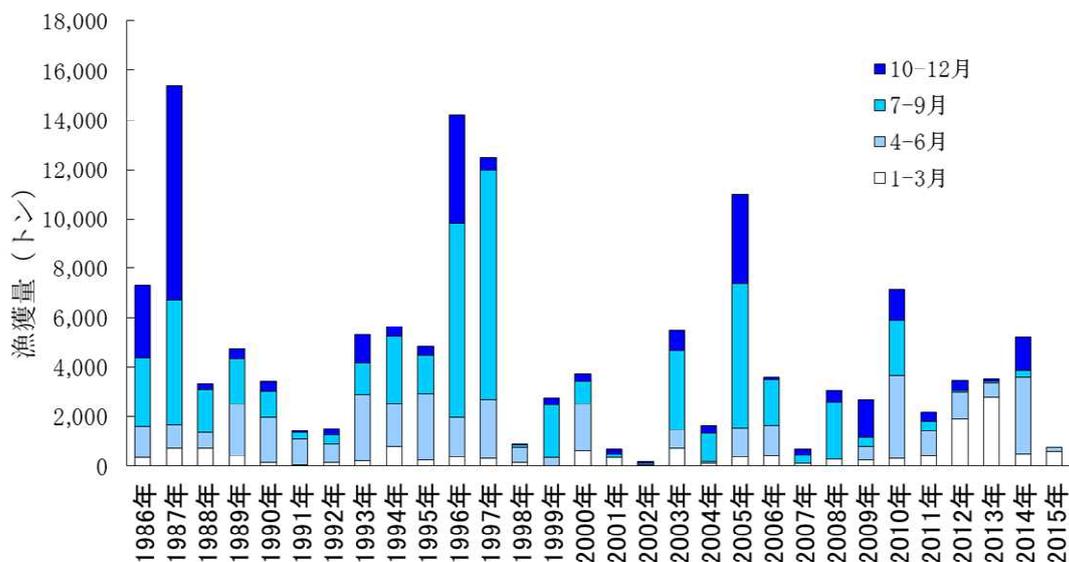


図9 さば類(マサバ・ゴマサバ)のまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2015年8～12月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2014年8-12月:1,414トン)

漁獲対象年級群及び体長:

近年の調査結果によれば、期間中は尾叉長20～30cm前後のゴマサバ0～1歳魚(2014～2015年級群)が主体となるでしょう。

【説明】

近年(過去5年間)における1～6月の漁獲量平均は2,989トンと平年に比べ高い傾向が続いていました。しかし2015年1～6月の漁獲量は756トンと、近年を大幅に下回ったため(近年比25%)、来遊水準は前年を下回ると予測しました。

その他

■予測の根拠および参考資料

・平成27年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2015)

■用語解説

①エルニーニョ現象：太平洋赤道域の日付変更線付近から南米のペルー沿岸にかけての広い海域で海面水温が平年に比べて高くなり、その状態が1年程度続く現象のこと（気象庁ホームページから引用）。この現象が起こると、日本では冷夏暖冬になりやすいとされる。

②被鱗体長：体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。

③近隣海域：ここでは、3県（宮崎県・愛媛県・高知県）の海域とし、高知県の漁獲量の前年比は宿毛湾における中型まき網によるものとししました。

④尾叉長：体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 栽培資源チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

電話:0972-32-2155

FAX:0972-32-2156